

Unit 1 時制

動詞が担うのは「モノを関係づける」はたらきだけではありません。

Mary opens the window. と Mary is opening the window. と Mary opened the window. を比べてみてください。「メアリが窓を開ける」ということは共通していますが、それぞれが表す事態は以下のように異なります。

Mary opens the window. ([朝起きると習慣として]メアリは窓を開ける)

Mary is opening the window. ([今、まさに]メアリは窓を開けている)

Mary opened the window. ([過去のある時点で]メアリは窓を開けた)

ここでの違いはいわゆる「時制」の違いです。つまり、動詞には時制を調整することでいろいろな事態を表現するはたらきが備わっています。そして、英語の時制の取り扱いについては、テンスとアスペクトのふたつの概念が決定的に重要です。「テンス」は動詞の形に現れるもので、英語では現在か過去しかありません(未来を表現するのに使われる will は現在形で、その過去形がwould)。しかし、文を構成する主要な動詞には、テンスだけでなく、アスペクトも含まれています。ここでいう「アスペクト」とは、動詞が表す物事のありよう(相)を表すもので、英語では、以下のように単純相、進行相、完了相、それに完了進行相があります。

テンス	<u>単純相</u>	<u>進行相</u>	<u>完了相</u>	<u>完了進行相</u>
現在	現在単純形	現在進行形	現在完了形	現在完了進行形
過去	過去単純形	過去進行形	過去完了形	過去完了進行形

単純相、進行相、完了相、完了進行相には下記の特徴があります。

単純相→「動き・変化を伴わず、静止画的なありよう」

進行相→「動き・変化を伴う、動画的なありよう」

完了相→「何かが行われた状態のありよう」

完了進行相→「何かはずっと行われてきた状態のありよう」

英語の時制をすべてカバーした8文

以下の8文は英語の時制をすべてカバーしています。形が違えばそれが表す状況が異なることに注目し、時制の全体像を押さえましょう。

I make a call.

現在単純形：電話をかける。

I made a call.

過去単純形：電話をかけた。

I'm making a call.

現在進行形：電話をかけている。

I was making a call.

過去進行形：電話を（ある時）かけていた。

I have made a call.

現在完了形：電話をかけたところだ。

I had made a call.

過去完了形：（過去のある時点までに）電話をかけていた。

I have been making a call.

現在完了進行形：（さっきから）ずっと電話をかけている。

I had been making a call.

過去完了進行形：（過去のある時点まで）ずっと電話をかけていた。

現在単純形

I get up at seven. や She gets up at eight. の get up や gets up が現在単純形です。みなさんは「現在形」として理解されているのではないかと思います。単純アスペクトであるということがこの表現を理解する鍵になります。そこで、「現在単純形」と呼びます。

現在単純形は現在を語る表現ですが、その特徴は何か？ひと言でいえば、動き・変化が表現されない、ということです。Jack hates cats.（ジャックは猫がきらいだ）、She has beautiful blue eyes.（彼女は美しい青い目をしている）や You're my assistant.（君はぼくの助手だね）などは、動詞の意味の性質からいっても動き・変化がありません。

ここで特に注目したいのは、動きが感じられる動詞の場合です。ここに現在単純形の最大の特徴がみられます。ひと言でいえば、スナップショット的に状況を描写する、ということです。つまり、静止画的な捉え方が現在単純形の共通の特徴です。動いているものであれば、その動きを止めるという作用がありません。

以下は、朝起きてからの日常的な行為を列挙する例です。

The alarm goes off. → I jump out of bed. → I turn on the light. → I go into the bathroom. → I wash my face.
→ I brush my teeth. → I put in my contact lenses.

このように、一連の動作は現在単純形で表現されています。日本語にすれば「ああして、こうして、そしてそうする」という感じになります。

スナップショット的ということは、新聞や雑誌に写真が載っている場合、その説明書きにはピッタリだということです。例えば、「ジェームス・ブラウン、世界記録を樹立」という内容だと、James Brown sets a new world record. のように、現在単純形を使います。また、映画のスク립トのト書きの部分は「ああして、こうして、そしてそうする」のように手続き的に語られることから、やはり現在単純形が圧倒的によく使われます。以下は、日常のある場面を取り上げたドラマのスク립トを想定した例です。

Satoru wakes up and looks at the clock. He goes to wake up Rika and Takuya, but finds no one in their room. He then goes to the kitchen and finds Rika and Takuya are having breakfast. (悟は目が覚めて時計を見る。理香と拓也を起こしに行く。しかし誰も部屋にいない。台所に行って理香と拓也が朝食を食べているのに気づく)

毎日同じ動作を繰り返すと、習慣になります。例えば、I shave every morning. (毎朝ひげをそる) などがそれです。習慣には動き・変化はありませんね。

さらに、例えば太陽の日の出の様子を毎日観察している人にとっては、「太陽は東に昇るもの」という一般化が行われ、一般的真理を述べる際にも、The sun rises in the east. のように、現在単純形が活躍します。そういえば、学術論文などでは、一般化した語りが多いため、自然と現在単純形がよく使われます。

現在進行形

現在進行形は動画的に今を語る方法です。例えば「本日は晴天なり、本日は晴天なり、ただいまマイクの試験中」という内容を英語では、“Testing, testing, one, two, three, testing.” といいますが、ここでの、Testing, testing. というのは I’m testing, I’m testing. ということで、この形 (am + testing) が現在進行形です。

現在進行形：BE 動詞の現在形 (is/am/are) + 現在分詞 (doing)

「現在進行形」とは、現在、進行している様子を表現する形のことです。ここで注意しなければならないのは、典型的には、目の前の何かが行われるという状況を表します。He is jogging around the lake. といえば「彼は今まさに湖の周りをジョギングしている」ということです。動きが観察可能であるということと、進行中の動作は、いずれは終わるといった一時性を特徴として挙げるすることができます。また、「～しつつある」の意味で The bus is stopping. といえば「バスが止まろうとしている」ということです。

一時性を表す

現在進行形は、「まだ続いている動き」を描写するため、行為は未完結の状態を表すことになり、一時性を強調したいときも使うことができます。そこで、例えば、I live in Osaka.だと「現住所は大阪です」といった感じですが、I'm living in Osaka.といえば、今は大阪に住んでいるが、それはずっとというわけではない、という意味合いが含まれます。My computer works perfectly. だと「私のコンピュータは完璧に作動します」ということですが、My computer is working perfectly. といえば、「今のところはまだ完璧に動いている」ということで、やはり「今のところは」という限定的つきの意味合いになります。

リアルな情景描写

また現在進行形は動画的に事柄を描写するため、リアルな感じが強くなります。情景を浮かべやすくなるということです。そうしたリアルな表現は感情の表出にも使われ、You're always buying her something expensive. だと「あなたは、いつも彼女に高価なものを買ってやっているね」のように、場合によっては、強いいらだちの感情を含んだ表現にもなります。「本当だよ（だからちゃんと聞いてね）」は I tell you. というより、I'm telling you. のほうが、ピッタリですね。

いずれにせよ、現在進行形で表現されていれば、どんな動詞でも、なんらかの動きや変化を話し手が読み取っているということになります。例えば、have (持っている) や think (考える) は状態動詞としては、外から見た動きや変化がありません。しかし、例えば I'm having a good time. (楽しい時間を過ごしています) だとか I'm thinking of going to Ghana. (将来、ガーナに行こうと考えている) のように現在進行形で表現すると、心の動きが意図されることになります。

現在完了形

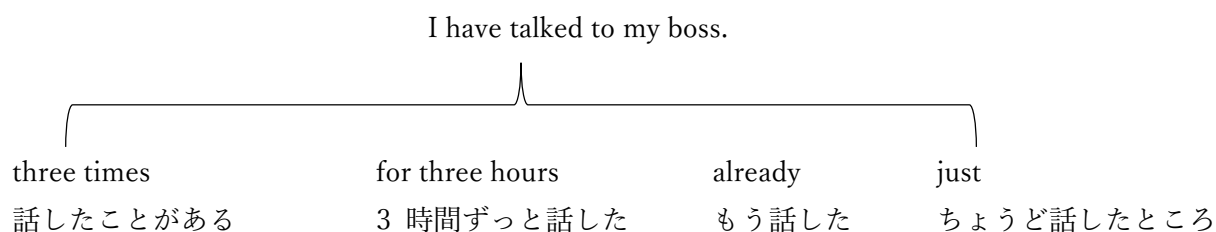
現在完了形は、テンスは現在で、アスペクトは完了相ということで、「何かが行われた状態(完了の状態)を HAVE (現在、経験)している」というのがその共通項です。ポイントは「現在への関心」と「何かが行われた状態」のふたつです。

「現在への関心」とは「今どうかに関心がある、発話内容が今も有効である」といった意味合いです。I've lost my wallet. と I lost my wallet. を比べてみましょう。前者は「現在への関心」ということから「財布をなくして今もない」ということに力点が置かれます。一方、「過去に財布を失くした（見つかった可能性あり）」という事実を表現するには I lost my wallet. を選びます。

以前、タバコの箱に The surgeon general has determined that cigarette smoking is dangerous to your health. (衛生局長官は喫煙が体に有害であると結論づけた) という警告文がありましたが、この結論に達したのは何年も前のことだとしても、現在完了形であることから、タバコの箱を手にする人はその結論が今も有効であると解釈します。これが「現在に関心がある」ということです。

もうひとつの「何かが行われた状態」に焦点があるというのはどういうことでしょうか。そもそも「過去分詞」は「何かが行われた」を表す動詞的な部分と「そういう状態にある」ということを表す形容詞的な部分があります。通常、have は「物」が対象だと「持っている(所有)」という意味になりますが、「事」が対象だと I had a walk this morning. のように「経験する(経験)」という意味合いになります。すると、I have done it. は「[done it] という状態を経験している」ということから、「それをしたところだ」という意味合いになります。だからこそ、何かを成し遂げた瞬間に叫ぶ言葉は動作の完了を直接表現する I did it! であって、I've done it! ではありません。have [done it] になると、直接的なインパクトは伝わらず、むしろ、「本当にやったんだ」と達成したことを嘯みしめる表現になるからです。

現在完了形にはいくつかの用法がありますが、それは、副詞情報との結びつきの結果です。例えば、I have talked to my boss. に副詞情報が加わることで、次のような解釈が出てきます。



ここで共通しているのは、(1) 過去や未来のことではなく、現在の関心事として語られていること、(2) 「上司と話した」ということを今HAVE していること (=今の状態) として捉えられていることとのふたつです。この「状態」ということに注目すれば、I have just talked to my boss. は、「ぼくは上司とちょうど話した」ではなく「ぼくは上司とちょうど話したところだ」ということで、「～したところだ」の部分が重要だということになります。

現在完了進行形

よく It has snowed for three days. と It has been snowing for three days. を比較して、前者は「3日間雪が降った」となり、雪は止んでいるのに対して、後者は「3日間ずっと雪が降っている」となり、今も雪が降っているといった説明が行われます。

朝、雪が積もっている状態を見て、「ひと晩中雪が降っていたんだね」と表現する場合、It has been snowing all night. といいます。この場合は、「ひと晩中雪が降り続けて今に至る」ということで、今も雪が降っているかどうかポイントではありません。現在完了進行形になっても、「ずっと～し続けてきた状態を今HAVE している（し続けてきた状態と今との間に切れ目がない）」というのが解釈のポイントです。

少し暗くなって帰ってきた子どもに「どこで何してたの?!」という母親に対して、I've been playing soccer in the park. (公園でずっとサッカーをしていたんだ) と答えたとしましょう。明らかに、サッカーは発話時においては行っていません。

過去単純形

テンスが過去でアスペクトが単純相というものを「過去単純形」といいますが、いわゆる「過去形」と呼ばれている表現のことです。アスペクトが単純形なのでスナップショット的な捉え方は共通しています。過去の出来事をスナップショット的に捉えるということは、何が起こったかを事実としてそのまま伝えるのに適しています。There was a traffic accident in front of my house last night. (昨夜、家の前で交通事故があった)、I first met her 10 years ago. (彼女に10年前に初めて出会った)、I cut myself shaving this morning. (今朝、髭剃りでけがをした) などはその例です。

過去の出来事を表現するには、それがいつのことなのかが重要な情報になります。過去というのはどこまでも遡ることができるため、例えば、She ate spinach. (彼女はホウレンソウを食べた) といっても、情報としては不完全な感じがします。

ここでのポイントは、現在単純形だと、She eats spinach. で「彼女はホウレンソウが(苦手ではなく)ちゃんと食べる」といった意味合いで「いつ」に関する情報は必要ありません。あるいは、I get up at six and wash my face. (6時に起きて顔を洗う) といっても習慣的な意味合いで理解することができます。ところが、I got up at six and washed my face. になると、事実として起こったこととなり、ある日の出来

事が語られていることになります。

しかし、過去単純形でも usually だとか often を付ければ、過去の繰り返された行為や習慣を表すことができます。I usually went swimming in the river. といえば、「私はたいてい川で泳いだものだ」という意味合いで、過去における習慣的な行為を表すことができます。また、I often took a walk around here when I was a student. (学生のころ、よくこの辺りを散歩した) もその例です。

過去単純形は、現在とは切り離された過去のある時点での出来事を描写するのが基本ですが、何かがなされた瞬間にこの形を使うことがあります。I did it. だと「私は何かをした」ということで、いつのことかはわかりません。10 年前でも、先週でも、昨日でも I did it. は I did it. です。ところが、何かスゴイことを成し遂げた瞬間に I did it! といえば「やった!」といった意味合いで、今、この瞬間に達成したことを表します。I made it! は「間に合った!」といった感じですね。I found it! だと「あった!」、I got it. だと「わかった」、かくれんぼうなどして見つけたとき You found me! といえば「ああ、見つかった!」、You said it. だと「まさにその通り」といった感じです。過去単純形は静止画的に何か成された状況を描写するため、今この瞬間に何かが起こったという場合にもピッタリの表現です。もちろん、I found it three days ago. といえば「3日前にそれをみつけた」ということで、明らかに過去の話になります。

過去進行形

「過去進行形」は動画的に過去の出来事を記述する際の表現です。動画的に過去の出来事を語るということは、動きが連想され、過去の場面がリアルになる、という特徴があります。At that time we had lunch. だと「その時、昼食をとった」ということで、出来事がスナップショット的に語られています。「何をしたか」についての直接の答えとなります。一方、At that time we were having lunch. になると、食事をしている情景が呼び起こされることとなります。「過去のある時点で動作が進行状態にあった」ということが過去進行形の基本です。過去進行形は動画的に過去の出来事を記述する際の表現です。

過去の時点を示すには at that time だとか last week も可能ですが、When she opened the door, I was cooking dinner. のように、ふたつの出来事を関連づける when などを使うこともよくみられます。

動画的な語りをすることで、過去の場面をリアルなものとして構成することが可能となります。そこで、過去進行形の重要な役割は、ある出来事や状況の背景を示すというものです。例えば、I was cooking dinner as usual. Then there was a great crash outside. (いつも通り、夕食を作っていた。そのとき、外ですさまじい音がした) という文章を考えてみましょう。I was cooking dinner as usual.が²There was a great crash

outside. の背景（バックグラウンド）になっています。

過去進行形は過去における、進行状態を描写する表現ですが、always やoften あるいは constantly など反復性を示すことばとともに用いると、反復動作をリアルな情景として描写することができます。When I was a child, I was always choking on food. といえ、ば、「子どものころは、いつも食べ物をのどに詰まらせていた」ということで、反復したことをビビッドに語った表現です。

過去完了形と過去完了進行形

過去完了形は、過去を回想する際の表現の1つです。過去を回想する場合、「ある時点で何があったか」は「過去単純形」、「ある時点で何をしていたか」は「過去進行形」で表します。

過去完了形は「過去のある時点において何かがなされた状態にあった」ということです。この「過去にすでに経験していた」ということを表すのがHAD（過去の経験空間）です。今・ここにいる話し手が過去を回想し、ある過去の時点を設定して、それまでに何かなされたことをHAD していたということです。

「過去のある時点より前の経験を語る」のが過去完了形です。そこで、過去のある時点よりも遡るというのはたつきがあります。過去の時点より前に関心が置かれ、「そこで何かがなされていた」というのが過去完了形です。

過去完了形では、過去のある時点を設定することが重要で、表現上も、なんらかの形で示されることがよくあります。例えば、I had been in the hospital for four weeks when I had the operation. だと「手術をするまでに4週間入院していた」ということで、when I had the operation が過去の時点を設定する役割を果たしています。話題のフォーカスが「4週間入院していた」ということに置かれた表現です。

過去のある時点を表現上で設定する場合は when が一般的に使われますが、after や by the time など使われることがあります。しかし、文脈的に前後関係が推測できる場合は、その限りではありません。

過去完了形は「had + 過去分詞 (done) 」で表現され、**過去完了進行形は「had + been (完了) + doing (進行) 」**で表現されます。「過去のある時点までずっと何かが行われていた状態にあった」という意味合いです。例えば、「君がくるまで、もう何時間も待っていたんだぞ」という場合は、I had been waiting for hours when you came. となります。